



ペドロ・パランドラーニ
リサーチアナリスト

日付: 2022年1月10日
トピック: Thematic



GLOBAL X ETFsリサーチ

テーマ型ETFレポート: 2021年第4四半期

Global Xのリサーチチームは、テーマ型ETFレポートの2021年第4四半期版を発表します。本レポートは、破壊的創造テーマに対するGlobal XのClassification System(テーマ別分類システム)とそれを追跡するテーマ型ETFを総括しています。また、テーマ型ETFの業界レベルの分析を行い、新規上場と償還、運用資産(AUM)の動き、資金の流れなどを見ています。

[テーマ型ETFレポートの2021年第4四半期版をダウンロードするにはここをクリックしてください](#)

テーマ型ETFの業界状況 – 第4四半期版の総括

2021年第4四半期末のテーマ型ETFのAUMは、米国ETF業界の総AUM 7.2兆ドルのうち1.8%を占めています。これは、2021年第3四半期末に達した2.0%よりもわずかに低い水準です。

テーマ型ETFのAUMは第4四半期に1,294億ドルに減少し、第3四半期の1,337億ドルからは3%減少しました。テーマ型ETFの前四半期比での資産の減少は、米国ETF業界のAUMが前四半期比で9%増加したのとは対照的です。

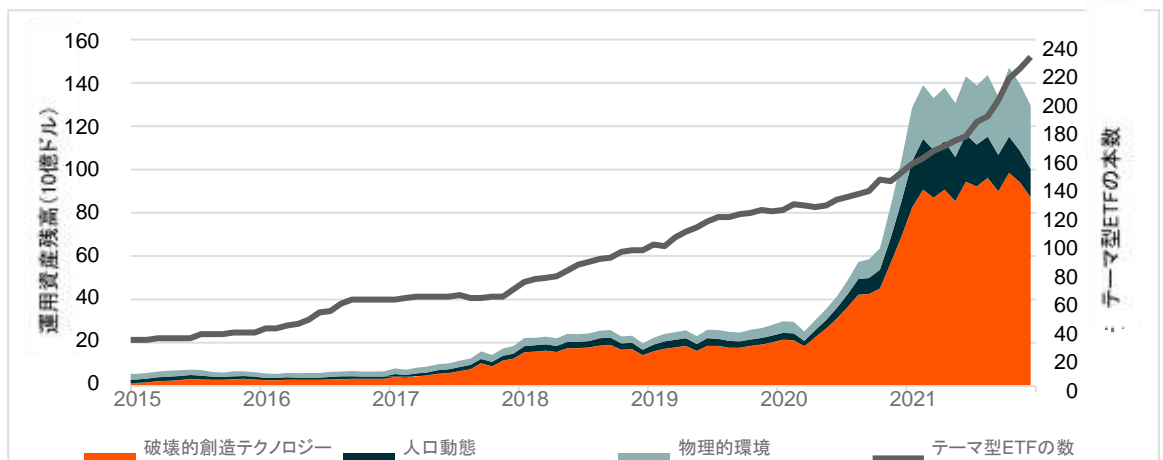
第4四半期中にテーマ型ETFの資産は減少しましたが、32億ドルのプラスの純流入がありました。テーマ型ETFの第4四半期の価格下落による減少は75億ドルとなり、同四半期の総AUM減少の原因となりました。

前年同期比ベースで見ると、テーマ型ETFのAUMは2020年第4四半期末時点の1,041億ドルから24%増加しました。

現在、テーマ型ETFは228本あり、前四半期末の198本から増加しました。前四半期末以降の新規上場は32本で、償還は2本でした。

Global Xの分類システムのカテゴリー(大分類)で見ると、「物理的環境(Physical Environment)」関連テーマのAUMは22億ドル増加しました。一方、AUMの減少額が最も大きかったのは「人口動態(People & Demographics)」関連テーマ(36億ドル減)で、次いで「破壊的創造テクノロジー(Disruptive Technology)」関連テーマ(29億ドル減)でした。

テーマ別では、「サイバーセキュリティ」のAUMが最も大きく、「クリーンテック」と「クラウド・コンピューティング」がそれに続きます。



出所: Global X ETFs, Bloomberg。2021年12月31日現在。注: 運用資産額には、前月最終取引日までに閉鎖されたファンドの資産も含まれています。



Global Xによるテーマ別分類システム

Global Xのリサーチチームは、破壊的創造テーマを特定し、テーマ型ETFを分類するための一貫したフレームワークを提供する「Classification System(テーマ別分類システム)」を策定しています。メディアや金融の世界では、しばしばテーマ性のある投資の定義が矛盾しているのを目にすることがあり、どのETFにテーマ性があるのか、どのようなテーマを追っているのかについて混乱が生じています。この分類システムの導入により、破壊的創造テーマとそれに関連するETFについて、より明確になることを期待しています。

テーマ別投資の定義

Global Xでは、テーマ型投資を、破壊的創造に関するマクロレベルの強力なトレンドと、それらのトレンドの実現によって利益を得る基礎的要素を特定するプロセスと定義しています。

テーマ型投資とは本質的には長期的な成長志向の戦略であり、一般的な地理的制約、伝統的セクター、または業界の分類にとらわれず、成長戦略どうしの相関を低く保ちながら、関連性のあるコンセプトに投資するものです。

特筆すべきこととして、破壊的創造をトレースする構造的トレンド(気候変動など)を示すものでない限り、テーマ型投資はESG戦略、価値観に基づく戦略、政策主導型の戦略によって構成されることはありません。さらに、伝統的なセクターや業界の分類に固執するファンドや、主に循環的なトレンド(通貨、バリュエーション、インフレなど)へのエクスポージャーを得ることを目的としたファンドは、テーマ性のある投資とはみなされません。最後に、上場インフラストラクチャー、マスター・リミテッド・パートナーシップ(MLP)、遍在的な国際商品などのオルタナティブ資産クラスはテーマ性があるとはみなされません。

テーマの分類

Global Xのテーマ別分類システムは、1)カテゴリー、2)メガテーマ、3)テーマ、4)サブテーマの4つの階層で構成されており、それぞれの階層の焦点はこの順に絞られていきます。

“カテゴリー”は最も広い階層であり、破壊的創造の3つの基本的な要因を表しています:テクノロジーの指数関数的な進歩(Disruptive Technology:破壊的創造テクノロジー)、変化する消費者の習慣と人口動態(People & Demographics:人口動態)、そして進化する物理的環境(Physical Environment:物理的環境)です。

一つ下の階層は“メガテーマ”であり、共通の領域で大きな変化を引き起こしている複数の変革的な力の基礎となります。概念的には、メガテーマは、より狭くターゲットを絞ったテーマの集合体です。例えば、ビッグデータは、機械/ディープラーニング、サイバーセキュリティ、量子コンピューティング、クラウド/エッジコンピューティングで構成されるメガテーマになっています。

さらに下の階層では、テクノロジーの進歩、消費者の需要の変化、環境への影響など、変革的な破壊の具体的な分野を“テーマ”として特定しています。現在、40の“テーマ”が分類されています。

“サブテーマ”とは、テーマの特定の用途や、テーマを推進する上流段階の要素など、よりニッチな分野を特定しています。

テーマ型ETFは、特定のカテゴリー、メガテーマ、テーマ、またはサブテーマを対象とすることができます。Global Xの分類プロセスでは、特定のETFの方法論、保有状況、目的を分析し、そのETFに最適なものを見つけ出すことを目指しています。「Classification System(テーマ別分類システム)」は、四半期ごとに見直しを行い、新たなカテゴリー、メガテーマ、テーマ、サブテーマの可能性を検討しています。また、新たなETFの導入や戦略の変更があった場合には、直ちにその分類によって評価されます。



Global X によるテーマ別分類システム

出所: Global X リサーチ。2021 年 12 月 31 日時点。

カテゴリー	メガテーマ	テーマ	サブテーマ
破壊的創造テクノロジー	ビッグデータ	機械/ディープラーニング	
		サイバーセキュリティ	
		量子コンピューティング	
		クラウド/エッジコンピューティング	リモートワーク
	モビリティ	自律型車両	
		電気自動車	リチウムイオン電池
	デジタルエクスペリエンス	AR(拡張現実)/VR(仮想現実)	
		ビデオゲーム	E スポーツ
		ソーシャルメディア	
		ストリーミング	
	フィンテック	モバイル決済	
		ピアツーピア貸付	
		クラウドファンディング	
		ブロックチェーン	
	コネクティビティ	デジタルインフラ	
		5G/次世代ネットワーキング	スマートデバイス/スマートシティ IoT
		新興市場インターネット	
		モノのインターネット	
		宇宙/衛星通信	
	ロボティクス	AI(人工知能)/オートメーション	
3D プリンティング			
ドローン			
人口動態	新しい消費者	ミレニアル世代と Z 世代	
		新興市場の消費者	
		都市化	
		e コマース	
		教育	
		シェアリング/ギグエコノミー	
		安全性と保障	
		大麻	
		スポーツくじ	
		プロスポーツ	
	健康	ヘルスケア分野のイノベーション	遠隔医療&デジタルヘルス、ゲノミクス、免疫療法、公衆衛生学
		人口の高齢化	高齢者介護、シニアエコノミー
		医療&健康	肥満、有機物
		新興市場ヘルスケア	
		代替医療	
		クリーンテック	
		クリーンエネルギー&再生可能エネルギー	太陽光、風力、水素
物理的環境	気候変動	資源不足	水、廃棄物/リサイクル、持続可能食糧
	革新的素材		
インフラ開発			



結論

新たなテクノロジーが既存のパラダイムに破壊的創造をもたらし、世界の人口動態の変化が世界の人口が求めるものを変化させ、消費者行動の変化を背景に既存のビジネスモデルが変更を余儀なくされ、物理的環境が劇的に変化する未知の時代にあつて、これらのテーマとそれにアクセスするための金融商品を追跡する一貫したフレームワークの必要性が高まっているとGlobal Xは考えています。

Global Xのテーマ別分類システムは、Global Xテーマ別分類委員会の専門知識、見解、意見に基づいており、変更される可能性があります。

Global Xでは、テーマ型投資を、破壊的創造に関するマクロレベルの強力なトレンドと、それらのトレンドの実現によって利益を得る基礎的要素を特定するプロセスと定義しています。テーマ型投資とは本質的には長期的な成長志向の戦略であり、一般的な地理的制約、伝統的セクター、または業界の分類にとらわれず、成長戦略どうしの相関を低く保ちながら、関連性のあるコンセプトに投資するものです。

テーマを特定するプロセスは、次の3つの不可避の原則から成り立っています。

- 1) テーマが実現し、経済または市場のセグメントに大きな影響を与えるという確固とした確信がなければなりません。テーマは多くの場合、テクノロジー、人口統計、消費者行動、または物理的環境の観察可能な構造的変化に左右されますが、他の要因による影響を受けることもあります。
- 2) テーマは投資可能なものでなければなりません。すなわち、このコンセプトへのエクスポージャーを提供する上場企業が存在しなければなりません。一つのテーマには様々な企業が含まれ、それぞれの企業は高い流動性を持ち、事業のかなりの部分(収益、資産、研究開発)がテーマに帰属することが理想的です。
- 3) テーマは、中長期的な期間(一般に5年以上とみなされています)をかけて実現すると予想されるものでなければなりません。期間がより長期になれば、テーマの特定が成功する要因としての市場のタイミングの比重は低下します。

特筆すべきこととして、そして上記の原則を考慮に入れると、破壊的創造をトレースする構造的トレンド(気候変動など)を示すものでない限り、テーマ型投資はESG戦略、価値観に基づく戦略、政策主導型の戦略によって構成されることはありません。さらに、伝統的なセクターや業界の分類に固執するファンドや、主に循環的なトレンド(通貨、バリュエーション、インフレなど)へのエクスポージャーを得ることを目的としたファンドは、テーマ性のある投資とはみなされません。最後に、上場インフラストラクチャー、マスター・リミテッド・パートナーシップ(MLP)、遍在的な国際商品などのオルタナティブ資産クラスはテーマ性があるとはみなされません。当社は、こうした除外対象が他の第三者による定義と異なる可能性があるものの、Global Xのテーマ別分類システムとプロセスに整合していると認識しています。

Global Xは、上記のテーマ型投資の定義と原則に基づいて強力なテーマを特定し、さらに共通の特性と要因によってテーマを整理することを目指すテーマ別分類システムを策定しています。この分類システムは、1) カテゴリー、2) メガテーマ、3) テーマ、4) サブテーマの4つの階層で構成されており、それぞれの階層の焦点はこの順に絞られていきます。

“カテゴリー”は最も広い階層であり、破壊的創造の3つの基本的な要因を表しています: テクノロジーの飛躍的進歩(Disruptive Technology: 破壊的創造テクノロジー)、変化する消費者の習慣と人口動態(People & Demographics: 人口動態)、そして進化する物理的環境(Physical Environment: 物理的環境)です。一つ下の階層は“メガテーマ”であり、共通の領域で大きな変化を引き起こしている複数の変革的な力の基礎となります。概念的には、メガテーマは、より狭くターゲットを絞ったテーマの集合体です。例えば、ビッグデータは、機械学習/ディープラーニング、サイバーセキュリティ、量子コンピューティング、クラウド/エッジコンピューティングで構成されるメガテーマになっています。さらに下の階層では、テクノロジーの進歩、消費者の需要の変化、環境への影響など、変革的な破壊の具体的な分野を“テーマ”として特定しています。“サブテーマ”とは、テーマの特定の用途や、テーマを推進する上流段階の要素など、よりニッチな分野を特定しています。

構造変化の新しい要因が出現したり衰退したりするにつれて、数や、カテゴリー、メガテーマ、テーマ、およびサブテーマは時間とともに変遷すると予想されます。このような分類の決定はGlobal Xテーマ別分類委員会(「委員会」)によって行われ、判断に際しては潜在的なテーマに関する内部および外部のリサーチとデータが考慮されます。

ETF業界は、テーマ別分類システム内で識別されたカテゴリー、メガテーマ、テーマ、またはサブテーマへのエクスポージャーの提供を目指す多くのファンドによって構成されています。Global Xテーマ別分類委員会は、最初に米国上場ETFの全ユニバースを評価したうえで、Global Xのテーマ別投資の定義、各ETFの明示された目的、方法論、および保有状況に基づき、テーマ型ETFとして適格なものを特定します。次に委員会は、ファンドの方法論、保有状況、および明示された目的をさらに分析することにより、分類システム内の各テーマ型ETFに最も適合するものを特定します。新しいETFが新規上場したり、既存のETFが戦略を変更したりすると、その分類は委員会によって直ちに評価され、変更内容が次の四半期のテーマ型ETFレポートで公開されます。



ETFが複数のメガテーマ、テーマ、またはサブテーマに関係する場合がありますが、その分類は、ETFの本質を最も的確に説明する定義に基づいて決定されます。

ETFは特定のカテゴリ、メガテーマ、テーマ、またはサブテーマに分類される場合がありますが、Global Xは、ETFが対象とする特定のテーマに適切かつ正確なエクスポージャーを提供するとは保証するものではありません。例えば、ETFが特定のテーマを対象としている場合がありますが、特定のテーマとの関連性または経済的エクスポージャーが低い企業を含め、非常に幅広いエクスポージャーを持っています。

「Classification System(テーマ別分類システム)」は、Global Xテーマ別分類委員会が四半期ごとに見直しを行い、新たなカテゴリ、メガテーマ、テーマ、サブテーマの可能性を検討します。分類の変更は、次の四半期ごとのテーマ型ETFレポートを公表するときに発表されます。

新しいETFが新規上場されたり戦略が変更されたりした場合は、その分類は委員会によって直ちに評価され、テーマ型ETFレポートを公表するときに公開されます。ETFの戦略/方法論、保有状況、または明示された目的が変更された場合、テーマ別分類システムは、ファンドの運用資産(AUM)の履歴を維持しながら、関係するETFをそれぞれの分類に迅速に組み込むか削除するかします。

これらの資料は、一般に入手可能な情報および信頼できると考えられる情報源からの情報に基づいており、情報提供のみを目的に作成されています。Global Xのテーマ型ETFレポートの完全性は、発行時点でGlobal Xが利用できるデータを使用して、その時点での最善努力原則に基づいて確認されています。あるファンドがこのフレームワークに含まれる場合、それはGlobal Xのみの見解を反映しています。Global Xは、このフレームワークが完全であること、またはそれぞれのETF発行体の観点からすべてのETFが含まれていることを保証するものではありません。

Global Xは、いずれのETFについても、レビュー要請や異議申立を受け付けております。Global X(research@globalxetfs.com)までご連絡いただければ、速やかに異議申立を検討いたします。なお、異議申立によりETFの分類が変更されることを保証するものではありません。

テーマ型ETFレポートは、テーマ別分類システムを含め、Global Xテーマ別分類委員会が監督しています。この委員会は、テーマ型投資とETF業界に関する幅広い知識と親和性を持つGlobal Xのリサーチチームおよびプロダクトチームのメンバーによって構成されています。委員会の目的は、最善努力原則に基づき、テーマ型ETFの世界の定義、分類、および識別を保証することです。委員会は少なくとも四半期ごとに会合を開き、分類システムをレビューするとともに、ETFの新規上場または戦略を変更するETFをアドホックベースでレビューします。

Global Xの書面による事前の許可なしに、これらの資料またはその一部に含まれるコンテンツ(「コンテンツ」)を変更したり、解析して模倣したり、複製したり、形式や手段を問わず配布したり、データベースや検索システムに保存したりすることはできません。コンテンツを違法な目的や許可されていない目的で使用してはなりません。Global Xは、コンテンツの正確性、完全性、適時性、または可用性を保証しておらず、コンテンツの使用から得られた結果について、原因に関係なく、誤差または脱漏についての責任を負いません。

コンテンツは「現状有姿」で提供されています。GLOBAL Xおよびその関連会社は、すべての明示的または黙示的保証(これには商品性または特定の目的への適合性またはコンテンツの使用に対する保証が含まれますが、これらに限定されません)を行うことを否認します。

Global Xまたはその関連会社はいかなる場合も、いかなる当事者に対しても、コンテンツの使用に関連する直接的、間接的、偶発的、模範的、補償的、懲罰的、特別または結果的な損害、費用、経費、法的費用、または損失(失われた収入または失われた利益及び機会費用が含まれますが、これらに限定されません)について、そのような損害の可能性について知らされていたとしても、責任を負わないものとします。

Global Xの詳細については、research@globalxetfs.comまでお問い合わせください。Global Xのテーマ別分類システムの方法論については、[こちら](#)をクリックしてください。

投資には元本が毀損する可能性などのリスクが伴います。この情報は個人または個別の投資アドバイスまたは税務アドバイスを意図するものではありません。この情報を売買または取引のために使用しないでください。投資、納税、税務については、投資顧問、税理士をはじめとする専門家に相談してください。

